

医療コミュニケーション(ロールプレイ実習)と生命倫理 (Medical communication and Bioethics)

【責任者/担当者】

〔医学教育センター〕蓮池 由起子 准教授

【担当者】

〔医学教育センター〕藤崎 和彦 特別招聘教授、中島 弘 特別招聘教授、担当教員

【目的】

医療現場において、医師对患者ならびに医療従事者間のコミュニケーションはきわめて重要である。早期臨床体験実習で実際の医療現場を見学し、今後学外施設に赴く前に医療現場でのコミュニケーションの基本を学ぶ。また生命倫理・バイオエシックスについても講義とロールプレイ実習を通して学ぶ。

【科目キーワード】

「医療コミュニケーション(Medical communication)」「生命倫理(Bioethics)」「ロールプレイ(Role play)」

【到達目標(アウトカム)】

- 医療コミュニケーションの特殊性と重要性を説明できる。
- 医療コミュニケーションを適切に行うことができる。
- 生命倫理の諸問題を概説できる。
- 協調性を持って適切にロールプレイを行える。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・文化的・社会的な知識を有している。
- ・プロフェッショナリズムを理解できる。
- ・医の倫理、生命倫理について理解している。
- ・人生の最終段階における医療を理解している。
- ・他者の立場を考慮して接することができる。
- ・様々な病気や障がいを知っている。
- ・患者の苦痛を知っている。
- ・同級生と教え合う態度を養成できる。
- ・ICTを活用し、疑問点を解決するための情報を収集して評価することができる。

【概要ならびに履修方法】

講義、ロールプレイ実習並びに発表会を行う。
実習を含んだ科目であるため皆勤を原則とする。

【準備学修ならびに事後学修に要する時間】

コミュニケーション全般について予習が望ましい。1時間以上。
ロールプレイの事前準備 1時間未満。(詳細は後日通知)

【成績の評価方法・基準】

プレゼンテーション、レポートならびに受講(ロールプレイを含む)中の態度にて行う。
小テストを行う場合がある。
遅刻、無断離席、積極性のない学修姿勢や受講態度、遅延行為(指名されたのになかなか答え
ない、行動が遅いなど)は減点、不合格となる可能性がある。
皆勤が原則であるが、止むを得ない理由による欠席(感染症による出席停止等)については、別
途課題もしくは追実習を課す。
なお、成績評価を受けるためには 各時限 90%以上の出席を必要とする。

【学生への助言】

真摯な態度で受講すること。積極的に質問すること。
特にロールプレイ実習には積極的に参加し、真剣に取り組むこと。
プレゼンテーションとグループレポート作成にあたっては、グループ内で十分に議論・情報共有し
メンバー全員が内容を理解しておくこと。
誰かが発表会を欠席した場合でも、プレゼンテーションや質疑応答に支障がないよう準備するこ
と。

【フィードバック方針】

学外教員(特別招聘教授)のため、設定しない。

【オフィスアワー】

外部講師が中心のため設定なし。

【受講のルール、注意事項、その他】

時限区分の変更、ならびに時間延長の可能性はある。
なお、この科目は医師となる資質を涵養し、その成長を評価するための科目である。この科目外
であっても医学生に相応しくない行動・態度があると思われた場合は、教務委員会等における審
議を経て、受講不可もしくは不合格とする場合がある。
科目の一部は関学交流科目であるため、関西学院大学学生が科目等履修生として参加する場
合がある。

【教科書】

特になし

【参考書】

「医療コミュニケーション—実証研究への多面的アプローチ」藤崎和彦、橋本英樹 編著
(篠原出版新社)2009 年

【連絡先】

教育研究棟 教学課(0798-45-6161)